

【研究主題】

**共に学び、共に成長し、自他を尊重して かしこく生きる子どもの育成
～交流及び共同学習の確立を目指して～**

立川市教育委員会 教育長 小町 邦彦

立川市立松中小学校におかれましては、平成30年度・31年度・令和2年度 立川市教育委員会 教育力向上推進モデル校として、「共に学び、共に成長し、自他を尊重して かしこく生きる子どもの育成 ～交流及び共同学習の確立を目指して～」を研究主題として掲げ、理解教育を中心にして研究を進めてこられました。

学習指導要領前文には、「（略）一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」とあります。

本校の研究では、学校の教育目標の実現を見据えつつ、目指す児童像と教師像を設定し、全教職員が一丸となった取組を推進されています。そして、研究の内容には、同前文にあるように、自己や他者を理解し、共同や交流といった学習活動を通して児童の資質・能力の育成を図る取組が位置付けられています。

本校の研究発表会は、コロナ禍における新たな取組として、オンライン形態で実施されます。新しい生活様式を踏まえた新たな取組として行われる学校の公式ウェブサイトを活用した本発表会は、研究の内容とともに、立川市内の小中学校における今後の研究発表会等の教育活動の幅を広げ、可能性を広げる取組であると確信しております。

松中小学校、福原憲生校長先生を中心に教職員の皆様が組織的に取り組まれたこれまでの研究の成果が、立川市内をはじめ多くの学校で更に広く活用されることを期待しております。

また、本日は、明星大学教育学部教育学科教授、星山麻木先生に御講演をいただきます。星山先生どうぞよろしくお願いいたします。

最後に、松中小学校における今後の教育活動の発展を祈念し、挨拶とさせていただきます。

立川市立松中小学校 校長 福原 憲生

開校50周年を迎えた本校の歴史の背景には、卒業生の地域社会での活躍と支えがあります。今後も将来に渡って、この地域社会で活躍し、さらに発展させることができるような人材育成が、本校の使命です。そのため、一人一人の児童に学びの楽しさやできるようになった喜びを味わわせ、本校の教育目標「やさしく かしこく たくましく」の実現に取り組んでいます。

本研究は、立川市教育委員会教育力向上推進モデル校の指定を受け、特別支援教育の視点で3年間の研究に取り組んだものです。本校の重点目標である「かしこく」自立した人間に成長させることを目指し、自他の違いを正しく認識して互いを認め合うことで、人権尊重と社会貢献の精神を育むことができると考え、指導を行ってきました。誰もが安心して学べる環境づくりは、児童の活躍できる場を広げるだけでなく、自ら学ぼうとする学習への意欲と自己肯定感を高めるということを検証しました。本研究の発表につきまして、皆さまからのご指導、ご助言を願いたします。

最後になりますが、明星大学教育学部教育学科教授、星山麻木先生をはじめ、多くの先生方にご指導をいただきました。心より感謝申し上げます。



【研究構想図】

学校教育目標

- やさしく
- かしこく
- たくましく

研究主題設定の背景

- ・平成28・29年度 ユニバーサルデザインを生かした研究
- ・特別支援学級「まつのみ」平成30年度開級(以下、まつのみ学級と表記)
- ・特別支援教室「キラリ」拠点校(以下、キラリと表記)
平成30年度より併設校

松中小学校の子どもたち

- ・所属学級に関わらず個性豊かな子ども
- ・育った文化の多様性

教師の願い

共生社会へ向けて、どの子ども、共に学び、共に成長してほしい。

研究主題

共に学び、共に成長し、自他を尊重して かしこく生きる子どもの育成
～交流及び共同学習の確立を目指して～

目指す子ども像

- 自他を尊重し、誰にでもわけ隔てないやさしい子
- 学んだことを生かし、自己成長力をもったかしこい子
- あきらめず、粘り強く続ける たくましい子

目指す教師像

- 共通理解、共通認識をもつやさしい教師集団
- 理解教育を深く学び新しい実践を生み出せる かしこい教師集団
- 困難なこともあきらめずチャレンジする たくましい教師集団

松中小学校で大切にしてきたこと

- ☆同一職員室…通常の学級、キラリ、まつのみ学級の全ての教員が集う職員室
- ☆対話…互いによく話し、分からないことはよく聞き合える雰囲気
- ☆学級に関係なく、子どもをよく見合う
- ☆相互補教
- ☆研究協議会のグループ編成の工夫
- ☆講師の意図的な指導・講評

研究仮説

松中小学校としての理解教育を進め、自己理解、他者理解を深める実践をつむこと。
その中で交流及び共同学習の実践をしていくこと。
教職員同士が意思の疎通をし合い、相互理解と尊重をし合うこと。
これらの積み重ねと努力によって、交流及び共同学習の素地が作られ、継続的なものとなるであろう。

松中小学校としての 理解教育

「障がい・障がい理解」という言葉を使わず、
他者理解の中で行っていく理解教育を目指す。

出前授業

交流及び共同学習での
意図的な体験や活動

多様性を認め合える
集団づくり

まつのみ学級との
年間の行事交流計画

学級力向上プロジェクト
リーダーチャート活用

校内での重なり合う通常の学習活動

- ・休み時間・掃除・給食・たてわり班活動
- ・クラブ・委員会・朝会・集会・外体育など

相互理解と尊重

発達段階に応じ、自己理解、他者理解、
交流及び共同学習のそれぞれが広がり深まっていく。

○交流及び共同学習 (高学年)

- ・交流や学習の中で成功体験をつむことで、関わり合う力を育てる。

○他者理解 (中学年)

- ・他者を理解し、尊重する力を育む。★「障がい理解」を含む

○自己理解 (低学年)

- ・自分を知り、理解する力を育む。
- ・自尊感情を高め、自己肯定感、自己受容、自己有用感を育てていく。

※ () 内は、中心に取り組んだ学年

「松中小学校としての理解教育」が実を結び、種となり、芽吹き、継続的なものへ

低学年

音楽「ハンドベルを使って 鳥の様子を表現しよう」

授業のねらい

・友達と協力しながら、音の重ね方やつながり方を色々試し、思いをもって音楽づくりの学習に取り組む。

交流のねらい

・どの子どもも意欲的に参加できるよう、掲示を視覚的にしたり、グループ活動をさせたりする。



教師の願い

- 音の重なりに注目してほしい。
- 即興的にできた音の組み合わせをおもしろいと感じてほしい。
- どんな鳥をイメージしたのかな。

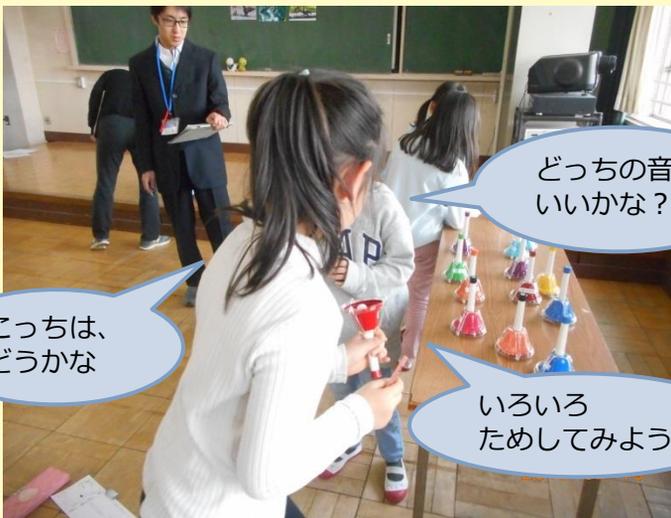
ぼくは、あの鳥を選んだよ。

学習活動

- ①ハンドベルの音色に親しむ。
- ②即興的な音遊びをする。
- ③鳥の様子にあった音選びをする。



それなら、こんなリズムが いいかな？



こっちは、どうかな

どちらの音が いいかな？

いろいろ ためしてみよう

子どもの振り返り

- ハンドベルで色々な音を探すのが楽しかった。
- 2人で話をするように音を出すことができた。
- 1つの音を鳴らすだけなので、できた。
- 作ったお話からリズムを考えるのが難しかった。

鳥たちのおしゃべりを音楽で表そう

なまえ _____
なまえ _____

こんなことをそうぞうすると作りやすいよ

- ・大きい ・小さい ・おやこ ・ともだち ・きょうだい
- ・せんせいとこども ・おかあさんとあかちゃん
- ・ごはんをたべてる ・がっこうであそんでる ・おさんぼしてる
- ・いっしょにうたってる ・あそんでいる ・べんきょうしている
- ・おこってる ・わらってる ・ないている ・すぐちかくにいる
- ・はなれたところにいる



わたしたちがかんがえた鳥のメモ

中学年

図画工作 「コップを積んだり並べたり」

授業のねらい

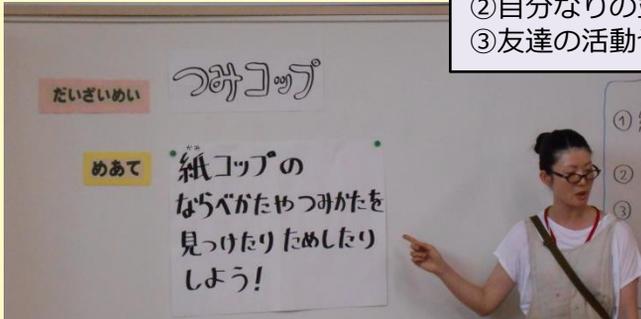
- ・紙コップを並べたり積んだりすることを楽しみ、並べ方や積み方を見付けたり、思い付いたことを試したりする。

交流のねらい

- ・自然に子ども同士が触れ合うことができる。また、互いの存在を自然に受け入れたり認めたりする。

学習活動

- ①紙コップを使って活動することを知り、並べ方や積み方を試す。
- ②自分なりの並べ方や積み方を見付け、活動する。
- ③友達の活動や作品を見る。



教師の願い

- それぞれの考え方や感じ方に触れたり気付いたりさせたい。
- 黙々と作業をする姿とともに、周りを見ながら作業する姿があって欲しい。
- 期待する子どもの動き→つぶやき、独り言、ちらっと友達の様子を見る、材料のやりとり、会話、表情など。



バランスがくずれないように、慎重にのせてね。

すごーい。
どこまで積むの？



そっち側から見て。

次はどこに置いたら、きれいな形になるかな？



子どもの振り返り

- 途中で壊れちゃったけど、協力して順番に積んでいったら、できた。
- 崩すときも楽しかった。
- みんないろんな工夫をされていて、すごいと思った。

高学年

「リーダーズフェスティバルをしよう」

授業のねらい

- ・自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いたりしながら、提案理由に沿ってみんなで納得する意見をまとめていくことができる。

交流のねらい

- ・高学年の子どもがそれぞれの特技やよさを生かしてお店が成功するように準備に取り組む。

学級会「出し物を3つ決めよう」

提案理由：これからの松中小を盛り上げるために、高学年みんなが協力して、上級生も下級生も一緒に楽しめる会をしよう。

自分たちだけではなく、
下級生も楽しめる活動だから、
賛成です。



教師の願い

- 一人一人の得意なことを生かした活動にしたい。



出し物が決まり、
それぞれが活躍できる役割を
学級会で話し合いました。

リーダーズフェスティバル 当日



どの学年の子どもにも楽しめるように
ルールを工夫して準備しました。

子どもの振り返り

- みんなで協力してお店を出しました。準備をしているときに友達の意外な一面を発見しました。下級生にも喜んでもらえて、最高のリーダーズフェスティバルになりよかったです。

出前授業

授業のねらい

- ・自分と他者を比較し、多様性について考えることができる。

特別支援学級「まつのみ」担任による出前授業

学習活動

まつのみ学級では、どんなことをしているのか、知ろう。



教師の願い

- 新しく開級した、まつのみ学級のことを知ってほしい。
- まつのみ学級の子どもたちとも一緒に学び合いたい。

子どもの振り返り

- まつのみ学級の教室に遊びに行きたい。
- もっと知りたいと思った。
- いろいろな事に挑戦しているのがすごいと思った。

| | | | | | | |
|--------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 8:40 | 生活 | 生活 | 生活 | 45分 算工 | 20分 算工 | 国語 読書 |
| 9:25 | | | | | | |
| 休み時間 9:25~9:30 | | | | | | |
| 9:30 | 体育館 体育 | 算数 | 校庭 体育 | 45分 算工 | 20分 算工 | 音楽 |
| 10:15 | | | | | | |
| 中休み 10:15~10:35 | | | | | | |
| 10:40 | 国語 | 20分 算工 | 45分 算工 | 道徳 | 校庭 体育 | |
| 11:25 | | | | | | |
| 休み時間 11:25~11:30 | | | | | | |
| 11:30 | 音楽 | 20分 算工 | 45分 算工 | 算数 | 算数 | |
| 12:15 | | | | | | |
| 給食 12:15~13:00 | | | | | | |
| ロング 休み 13:00~13:30 | | | | | | |
| 清掃 13:00~13:15 | | | | | | |
| 昼休み 13:15~13:30 | | | | | | |
| 13:35 | | | | | | |
| 14:20 | 算数 | 国語 | 国語 | 国語 | 学級活動 | |

特別支援教室「キラリ」の教師による出前授業

学習活動

こんなとき、どんな気持ちになる？自分と友達の違いを比べよう。



教師の願い

- 自分の思いや考え、感じ方を自分なりに表現してほしい。
- 友達の話聞いて、共通点や相違点を見つけてほしい。
- みんなそれぞれに考え方があることに気付いてほしい。

自分だけ違う考え方だったら
どうしよう、と思ったけど、
似た考えの人がいてよかった。



・・・なるほど！
そんな感じ方もあるのか。
みんな違う考えでおもしろいな。

子どもの振り返り

- いろんな気持ちの人がいることが分かった。
- 全部同じ人はいなかった。違っていいんだと分かった。

【研究の成果と課題】

成果

- ・子ども同士が自然に関わることができ、共にいることが当たり前という関係づくりができています。
- ・多様性を受け入れ、相手を受容することができるようになった。
- ・交流及び共同学習の中で、通常の学級、まつのみ学級、共にねらいを達成するための手だてと工夫をつくることができた。
- ・年間の交流計画作成と柔軟な対応ができています。

課題

- ・連絡事項等は今後も互いに共有し合うことが必要である。
- ・自己理解を深めるための自尊感情を育み、自己肯定感を高める手だての工夫を継続して行っていくことが必要である。

【御指導いただいた先生】

明星大学 教育学部 教育学科 教授 星山 麻木 先生



【研究にたずさわった教職員】

(◎研究主任 ○研究推進委員)

校長 福原 憲生
副校長 田野倉 宏美

低学年 分科会

| | | |
|------------|------------|-----------|
| 四本 由利 (1) | ○横森 千明 (1) | ○岡 泰子 (1) |
| ○中村 光雄 (2) | 青木 絵美 (2) | 鈴木 芳実 (2) |
| 北澤 美沙紀(専) | ○嶋田 詩歩 (キ) | 藤井 健太 (キ) |
| ○藤原 基 (ま) | | |

中学年 分科会

| | | |
|------------|------------|------------|
| ◎飯塚 陽志恵(3) | 原 一朗 (3) | ○長瀬 葉留美(4) |
| 宮澤 加菜子(4) | ○唐亀 輝美 (専) | ○幸島 民恵 (専) |
| ○嶺岡 麻子 (キ) | ○宮下 和代 (ま) | |

高学年 分科会

| | | |
|------------|------------|-----------|
| ○岡山 貴洋 (5) | 和田 千里 (5) | 宇野 直樹 (5) |
| ○浅見 登志子(6) | ○神地 曜子 (専) | 井戸川 陽 (キ) |
| 野崎 まどか(キ) | 加園 海丘 (ま) | |

(1)～(6) 学年
(キ) 特別支援教室「キラリ」

(専) 専科
(ま) 特別支援学級「まつのみ」

平成30・31年度 教職員

| | | | |
|--------|--------|--------|-------|
| 小嶋 千尋 | 厚東 小百合 | 清水 隆之介 | 永見 恵子 |
| 丸山 由紀夫 | 荒畑 美貴子 | 永井 麗美 | 千葉 寛子 |
| 高橋 菜美子 | 深田 菜穂 | 宮寺 翔 | |